

環境・安全レポート

(レスポンシブル・ケア活動報告)

2013年版



株式会社 **ADEKA**

三重工場

目次

1. ごあいさつ	2 頁
2. 三重工場の概要	3 頁
3. 環境保全活動	
(1) 環境方針	4 頁
(2) 環境行動目標	4 頁
4. 環境マネジメントシステムの状況	
(1) 環境管理推進組織	4 頁
(2) 環境教育 (3) 環境会計	5 頁
(4) グリーン購入	5・6 頁
5. 環境パフォーマンス	
(1) 生産量の推移	7 頁
(2) 環境負荷のインプットの低減	7 頁
(3) 環境負荷のアウトプットの低減	8 頁
6. 安全衛生活動	
(1) 労働安全衛生方針	10 頁
(2) 労働安全衛生活動目標	10 頁
(3) 安全衛生教育	10 頁
(4) 安全衛生活動の成果	11 頁
(5) 保安活動	11・12 頁
7. 物流環境・安全活動	12 頁
8. 社会貢献活動	
(1) 地域とのコミュニケーション	12・13 頁
(2) 清掃活動	13 頁
アンケート	15 頁

1. ごあいさつ

ADEKA グループは、「新しい潮流の変化に鋭敏であり続けるアグレッシブな先進企業を目指す」、「世界とともに生きる」という経営理念を通じて、「社会との融和」と「人と技術の優しい調和」を図り、健康で豊かな社会の実現を目指すことを CSR の基本方針としています。この環境保全と経済発展とを両立させるという命題に対して、ADEKA グループ一丸となって取り組んでおります。

株式会社 ADEKA 三重工場は 1965 年の開設以来、プラスチック用樹脂添加剤や情報化学品材料等を製造してきましたが、従来から「環境保全は工場の発展・存続のための最重要インフラ」と位置づけ、同業他社に先駆け環境保全の管理を向上させてきました。これを徹底させるための国際基準である「ISO14001：環境マネジメントシステム」の認証登録を 1996 年 12 月に受け、2005 年には 2004 年度版への移行を行いました。また、安全対策も環境保全同様に重要との認識の下に、「OHSAS18001：労働安全衛生マネジメントシステム」の適合証明を 2000 年 9 月に受け、2008 年 8 月には 2007 年度版への移行を行いました。

当社の需要家、株主、地域住民の方々、また工場で働く従業員にとって、安全・安心であり且つ信頼される工場であり続けられるように、今後とも工場労使一体となって更なる改善・改革に取り組んでいく所存です。

本報告書は、2012 年度の株式会社 ADEKA 三重工場の安全・環境に対する取り組みとその成果を集大成したものです。2012 年度は、環境面では ① 公害と苦情の撲滅、② 省エネルギーの推進、③ 廃棄物削減、④ グリーン調達の推進、⑤ ゼロエミッションの推進を目標として掲げ、取り組んでまいりました。安全面では、労働災害と通勤途上災害を 0 件とすること（ゼロ災の達成）を目標として掲げ、安全活動を展開してまいりました。更には、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災以降、その発生が危惧される南海トラフ巨大地震を想定した備え、BCP【事業継続計画】の構築にも 2012 年度は取り組んでまいりました。

2013 年度は 2012 年度の結果を踏まえた上で、前年度以上に継続的な改善・改革に取り組んでいます。

株式会社 ADEKA 三重工場は、地域に根ざした市民企業として、行政や地域社会とのパートナーシップの強化にさらに努め、あらゆる機会を通じ地域の発展と環境保全に尽力し、「環境調和型企业」の実現に向けて努力をしていきます。

株式会社 ADEKA 三重工場の環境保全・安全対策の諸活動を皆様にご理解頂くと共に、皆様からのご意見・ご指導をいただければ幸いです。

2013 年 9 月

株式会社 
三重工場長

山田芳雄

2. 三重工場の概要

【沿革・事業内容・工場運営】

株式会社 ADEKA 三重工場は樹脂添加剤、情報化学品材料等の製造を行っています。株式会社 ADEKA 三重工場は、樹脂添加剤の一つである塩化ビニル用安定剤製造を目的とし、1965 年にアデカ・アーガス化学株式会社三重工場として開設しました。その後、1990 年に旭電化工業株式会社と合併し、旭電化工業株式会社三重工場となりました。旭電化工業株式会社は、2006 年 5 月 1 日に社名を株式会社 ADEKA と変更しました。現在、ADEKA 三重工場は 48 年目を迎えています。

三重工場は三重県桑名市郊外の多度山麓の田園地帯にあり、現在では塩化ビニル用安定剤、塩化ビニル・ゴム用可塑剤、ポリオレフィン用抗酸化剤、光安定剤などの樹脂添加剤、感熱紙用添加剤、油剤・その他分野の添加剤、液晶パネル用画像材料、DVD 用光記録色素などの情報化学関係の材料を製造するファインケミカルの工場に発展いたしました。

三重工場は 5S 活動の基礎の上に環境、労働安全衛生、品質、設備保全の 4 つの安全を目標に掲げ、地域住民、顧客、働く人たちに安全・安心を与える、磐石な体制で運営を行っています。

環境については、当工場は緑豊かな田園地帯に立地することから、工場開設時より環境に配慮した活動を進めてきました。より一層環境に優しい工場を目指し、1996 年 12 月に国際規格の環境マネジメントシステム ISO14001 の認証を取得し、マネジメントシステムに基づいた改善活動を展開しています。

労働安全衛生管理は従来の活動をマネジメントシステムにまとめ、BS8800 を基本とした労働安全衛生マネジメントシステム、OHSMS の適合証明を 2000 年 9 月に一般財団法人日本品質保証機構（JQA）より受け活動してきましたが、同機構において 2001 年 9 月に OHSAS18001 への移行を行いました。

品質管理についても 1993 年 5 月に国際品質管理システム ISO9002 を認証取得しました。規格改正により、2002 年 7 月に ISO9001（2000 年度版）、2009 年 7 月に ISO9001（2008 年度版）への移行を行い、これにより管理しています。

一方、設備管理では、TPM 活動に取り組み 1989 年 TPM 優秀賞第 II 類、その後 1995 年に TPM 優秀賞第 I 類を受賞。主要設備については、PM トータルシステムに基づいた設備管理を行っています。

また、2011 年度からは MCFS - 5G（MCFS=Mie Continuous Five S）と称し、5S を基本とした ① 事故・災害を発生させない現場づくり、② 公害を発生させない現場づくり、③ 異物・品質不良を発生させない現場づくり、④ 工程停止を発生させない現場づくり、⑤ 工場貢献利益を拡大できる現場づくりを目指し、安心して働ける職場造りを目指した独自の活動を進めています。更に、今日では事業のグローバル化と共に、海外 7 カ国に展開する関連会社や工場の技術指導・援助等の技術センターとして重要な役割も果たしています。



1965 年 工場開設時の全景

【工場概要】

開設	1965 年（昭和 40 年）10 月
敷地	118,331 m ² （約 35,800 坪）
従業員	177 名（再雇用 9 名、嘱託 6 名を含む）2013 年 9 月 1 日現在
常駐協力会社：	109 名 （ADEKA 総合設備(株)、(株)ケイエス、ADEKA 物流(株)、三重加工サービス(株)）
組織	2 部 10 課
勤務形態	日勤、2 班 2 交代、4 班 3 交代

3. 環境保全活動

(1) 環境方針

株式会社 ADEKA 三重工場では下記の環境方針を策定し、方針に従って活動しています。

<h3>三重工場環境方針</h3>
<p><理念></p> <p>(株) ADEKA 三重工場は、自然豊かな地域に立地している化学工場であることを認識し、環境保全への取り組みを工場運営の最重要課題のひとつと位置づけ、環境と調和した活動を推進し、環境にやさしい工場作りを目指します。</p>
<p><方針></p> <ul style="list-style-type: none">○ 法規制の遵守と継続的改善 環境に関する法令・協定および当工場が同意した要求事項ならびに社内基準を遵守すると共に、技術的・経済的に可能な範囲で環境保全の継続的改善に努めます。○ 環境負荷の低減 工場活動が環境に及ぼす影響を捉え、持続可能な目的・目標を設定し廃棄物・エネルギー等の環境負荷の低減に努めます。○ 環境保全意識の高揚 環境教育・啓蒙活動を通じて、従業員一人一人が環境保全意識を向上させ、自主管理の徹底に取り組みます。○ 対外連携の促進 地域社会の一員としての自覚を持ち、積極的な情報公開で意思疎通の充実を図り、社会に安心と信頼を与える工場作りに努めます。
<p>2013年4月1日</p> <p>株式会社 ADEKA 三重工場長 山田芳雄</p>

(2) 環境行動目標

2012年度は、次の目標を掲げ活動してきました。

<h3>目標</h3>										
<p>1. 環境保全</p> <ul style="list-style-type: none">① 工程別管理の強化による省エネ活動の推進と効果の明確化② CO₂排出量削減活動の推進と2020年度までの実行計画の立案と推進③ 産業廃棄物の品別指標の導入による削減効果の明確化と個別改善活動による削減④ グリーン購入の積極的推進⑤ ゼロエミッションの推進と完全ゼロエミ達成推進										
<p>2. 継続的管理目標</p> <table><tr><td>① 公害・苦情の発生</td><td>0件</td></tr><tr><td>② 省エネルギーの推進</td><td>原単位比で対前年 1%改善</td></tr><tr><td>③ 産業廃棄物削減（添加剤工程）</td><td>原単位比で対前期 2%改善</td></tr><tr><td>④ グリーン調達の推進</td><td>80%達成</td></tr><tr><td>⑤ ゼロエミッションの推進</td><td>最終埋め立て比率を0.5%未満に削減</td></tr></table>	① 公害・苦情の発生	0件	② 省エネルギーの推進	原単位比で対前年 1%改善	③ 産業廃棄物削減（添加剤工程）	原単位比で対前期 2%改善	④ グリーン調達の推進	80%達成	⑤ ゼロエミッションの推進	最終埋め立て比率を0.5%未満に削減
① 公害・苦情の発生	0件									
② 省エネルギーの推進	原単位比で対前年 1%改善									
③ 産業廃棄物削減（添加剤工程）	原単位比で対前期 2%改善									
④ グリーン調達の推進	80%達成									
⑤ ゼロエミッションの推進	最終埋め立て比率を0.5%未満に削減									

4. 環境マネジメントシステムの状況

(1) 環境管理推進組織

株式会社 ADEKA 三重工場では、早くから環境管理に取り組み、1996年には国際規格 ISO 14001 の認証を取得し、環境マネジメントシステムを導入しています。規格改訂に伴い、2005年度には ISO14001 : 2004 年度版に更新しています。このシステムでは常駐協力会社を含む全ての部門及び階層の役割、責任、権限について明確に規定しています。

(2) 環境教育

組織のために働く全ての人々に対して、環境マネジメントシステムの周知と自覚の徹底を図ります。全員のレベル向上と環境の継続的改善を進めるための教育訓練計画を全ての部署で作成し、それに則り教育訓練を行っています。また、公的資格の取得にも努め、多数の資格を取得しています。資格者一覧を次に示しました。

表-1 主たる資格の取得者一覧表 2013年8月末現在

該当法規制	資格名称	必要者数	取得者数
大気汚染防止法	公害防止管理者 大気1種、2種	2名	9名
水質汚濁防止法	公害防止管理者 水質1種、2種	2名	13名
廃棄物処理法	産業廃棄物焼却施設技術管理士	1名	3名
"	産業廃棄物中間処理施設技術管理士	1名	2名
"	特別管理産業廃棄物管理責任者講習修了者	1名	6名
労働安全衛生法	有機溶剤作業主任者技能講習修了者	27名	146名
"	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習修了者	27名	129名
"	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習修了者	29名	146名
"	第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習修了者	13名	88名
"	乾燥設備作業主任者技能講習修了者	9名	54名
"	フォークリフト免許取得者	86名	171名
"	クレーン運転業務特別教育修了者	21名	114名
"	1級ボイラー技士	4名	16名
"	2級ボイラー技士	4名	16名
"	ボイラー整備士	0名	12名
"	第1種 衛生管理者	1名	2名
消防法	危険物取扱者甲種	0名	35名
"	危険物取扱者乙種4類	28名	140名
"	危険物取扱者乙種4類以外	7名	43名
省エネ法	エネルギー管理士	1名	5名
高圧ガス保安法	高圧ガス製造保安責任者（冷凍機械）	1名	1名
"	高圧ガス製造保安責任者（乙種化学、丙種化学）	4名	20名
計量法	主任計量者（質量に係る計量証明事業）	1名	5名
電気事業法	第2種 電気主任技術者	1名	1名
"	第3種 電気主任技術者	0名	5名
"	高圧・特別高圧電気取扱業務特別教育	1名	2名

(3) 環境会計

2012年度の設備投資は、2011年度に対し▲15.9%減少しました。内、環境設備投資額の占める割合は2011年度比で▲1.0ポイント減少しました。又、原材料削減効果は前年度に比べ、着実に効果を出しています。しかしながら、省エネルギー効果は、省エネへの取組みを実施したものの、2011年度比で▲19.5%の減少となりました。

表-2 環境会計 単位 千円

	2011年度	2012年度
期間中の総設備投資額	1,068,642	898,715
期間中の環境設備投資額	147,226	115,134
期間中の省エネルギー効果	6,100	4,909
期間中の原材料削減効果	22,628	26,495

(4) グリーン購入

株式会社 ADEKA 三重工場で使用する文具については、2011年度と同数の328品目でした。この内、エコ商品が市販されているのは277品目に増加となり、市販されている物は全てエコ商品を採用しました。又、文房具以外の事務用品については111品目に減少（▲5.9%）となり、103品目について全てエコ商品を採用しました。結果、グリーン購入比率は、文具では84.5%、文具以外では92.8%、全体では85.6%とエコ商品購入比率は上昇し、目標の80%を過達することが出来ました。

表-3 グリーン購入比率

文房具	2011 年度	2012 年度	文房具以外	2011 年度	2012 年度
①総購入文房具数	328	328	⑤購入数	118	111
②エコ商品市販数	272	277	⑥エコ商品市販数	109	103
③エコ商品購入数	272	277	⑦エコ商品購入数	109	103
④購入比率 (%)	82.9	84.5	⑧購入比率 (%)	92.4	92.8

5. 環境パフォーマンス (環境保全への取り組みと改善状況)

表-4 インプットとアウトプットのまとめ

INPUT			
【エネルギー】 	項目	2012 年度実績	対前年比(%)
	電力(原油換算量) (kℓ)	3,699	▲3.8
	蒸気(原油換算量) (kℓ)	3,380	▲1.4
	廃油焼却(原油換算量) (kℓ)	966	+1.8
【水】 	項目	2012 年度実績	対前年比(%)
	地下水汲み上げ量 (千 t)	1,397	▲20.3
OUTPUT			
【大気】 	項目	2012 年度実績	対前年比(%)
	CO ₂ 発生量 (t)	19,612	+2.0
	NO _x 排出量 (t)	18.0	+38.5
	NO _x 排出濃度 (ppm)	94.0	+77.4
【化学物質】 	項目	2012 年度実績	対前年比(%)
	PRTR 物質取扱量 (t)	3,376	+180.0
	PRTR 物質排出量 (t)	0.461	+326.9
	廃棄物への移動量 (t)	37.0	+368.7
【水域】 	項目	2012 年度実績	対前年比(%)
	COD 発生量 (t)	2.3	±0
	BOD 発生量 (t)	1.3	+62.5
	水の循環量 (千 t)	819	+9.1
【製品】 	項目	2012 年度実績	対前年比(%)
	製品生産量 (t)	13,212	+5.1
	全生産量(中間体含む) (t)	21,209	▲2.9
【廃棄物】 	項目	2012 年度実績	対前年比(%)
	廃棄物発生総量 (t)	11,358	▲8.9
	外部委託量 (t)	3,918	▲13.9
	最終埋め立て量 (t)	20	▲28.6
	ゼロエミ比率 (%)	0.18	▲18.2

(1) 生産量の推移

2008年9月に発生し、世界経済の活動に波及したリーマンショック以降、EUの金融不安等を発端とした長引く経済不振により、株式会社 ADEKA 三重工場の生産活動も影響を受けましたが、2012年は回復の兆しが見えてきました。中間体を含む総生産量は21,209tと対前年比▲2.9%に減じたものの、製品自体の生産量は13,212tと対前年比+5.1%増加しました。

汎用製品のグローバル展開を進める一方で、複雑な中間体生産工程を経る高機能製品、新規製品の生産量が増加しています。

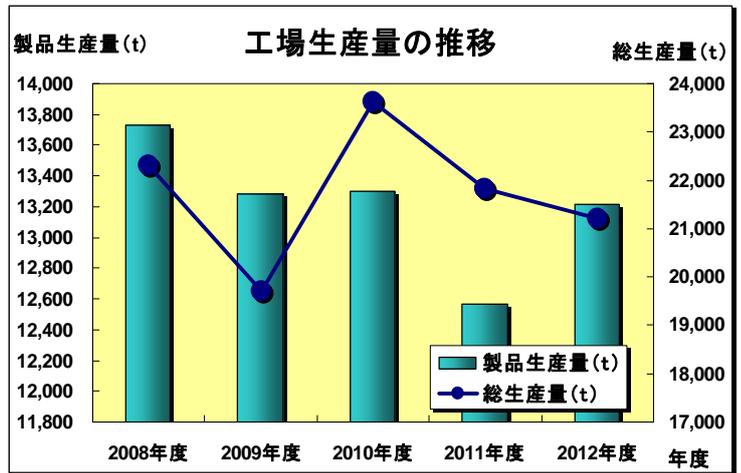


図-1 工場生産量の推移

(2) 環境負荷のインプットの低減

1) エネルギー使用量

株式会社 ADEKA 工場で使用するエネルギーは、原材料の加熱用蒸気を発生させるために使用する都市ガスと、動力・照明に使用する電力に分けられます。

2012年度については、省エネ機器の導入と製品生産量の増加に伴い、製品 1t 当りのエネルギー使用量 (原単位) は 0.540kℓ/t となり、前年比▲7.4%の改善となりました。更に、省エネ機器の導入、生産効率を高める工程改善を進め、エネルギー効率を高める努力を進めてまいります。

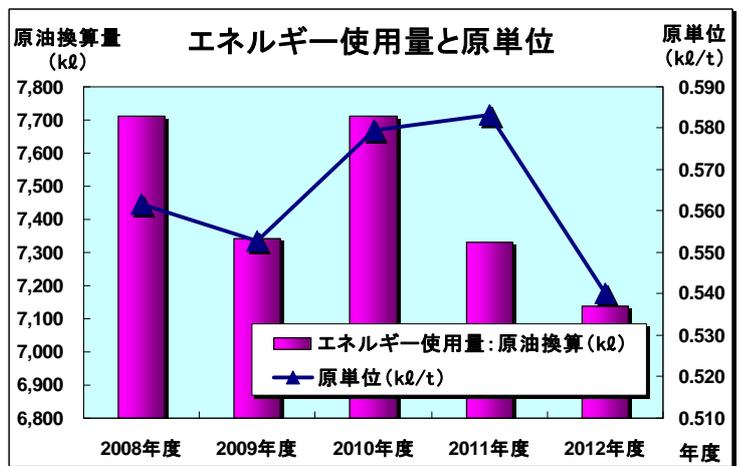


図-2 エネルギー使用量と原単位

2) 地下水使用量

株式会社 ADEKA 三重工場では飲料水を含め、構内で使用する水は全て地下水により賅っています。工場構内に掘られた井戸から汲み上げられた地下水は、各工程で使用された後、工場から排出されています。地下水を有効に利用するため、冷却塔で冷却し、再利用を図っています。

2012年の地下水汲み上げ量は、2011年度比で▲20.3%減少させました。汲み上げポンプのインバーター化等による省エネを図ったこと、製品の生産量の増加に伴い、原単位では2011年度比▲24.0%改善することが出来ました。

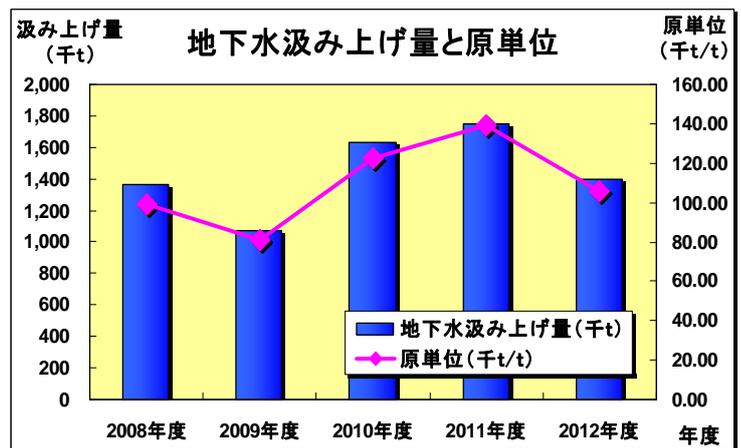


図-3 地下水汲み上げ量と原単位

(3) 環境負荷アウトプットの低減

1) 大気への排出量

① CO₂発生量

株式会社 ADEKA 三重工場では前述のように、生産活動に多くのエネルギーを使用しており、生産活動に伴ってCO₂が発生します。CO₂の発生量は購入電力を含んだエネルギーの使用量に比例しています。

2012年度は2011年度に比べ、CO₂の発生量は+2.0%の増加となりましたが、原単位では製品生産量の増加、省エネ・工程改善への取組みと合間って、▲3.0%の改善となりました。

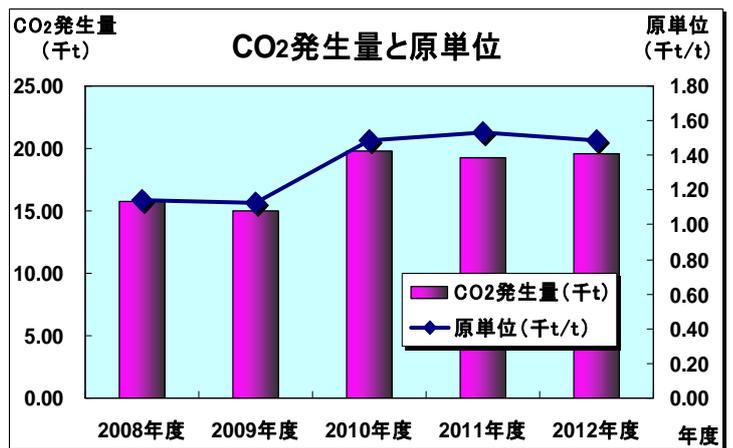


図-4 CO₂発生量と原単位

② NO_x排出量

株式会社 ADEKA 三重工場ではプロセスの熱源として蒸気を必要とするため、ボイラーを設置しています。2004年度以降はボイラーの燃料転換(重油 ⇒ LNG)により、SO_xの排出はなくなり、NO_xの排出量総量もそれ以前に比較して減少、全ての対象設備・機器の排出濃度の実測値は規制値の150ppmを十分に下回っています。2012年度は、廃油焼却炉稼働が増加したことにより、排出濃度が増加しています。

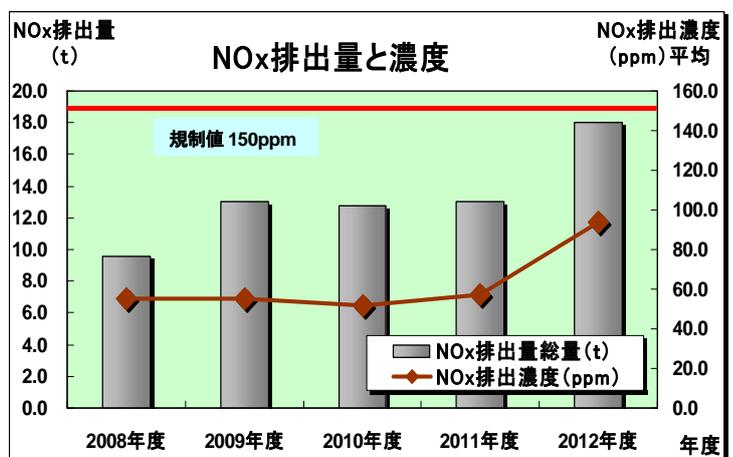


図-5 NO_x排出量と濃度

2) 有害化学物質の排出・移動

株式会社 ADEKA 三重工場では原料として多くの化学物質を使用しています。製品の多様化により、原料の種類も増加しており、国の定めるPRTR法の対象となる第一種指定化学物質の内、年間取扱量が1tを越える品目の数は2012年度では32物質となりました。その取扱量は3,376t(2011年度比+180%)、排出量0.461t(2011年度比+327%)、移動量37t(2011年度比+369%)と大幅増加となりました。新規取り扱い物質の増加、生産品種構成の変化がその要因となりました。

有害化学物質については、取扱量、排出量、移動量の削減に努力していきます。

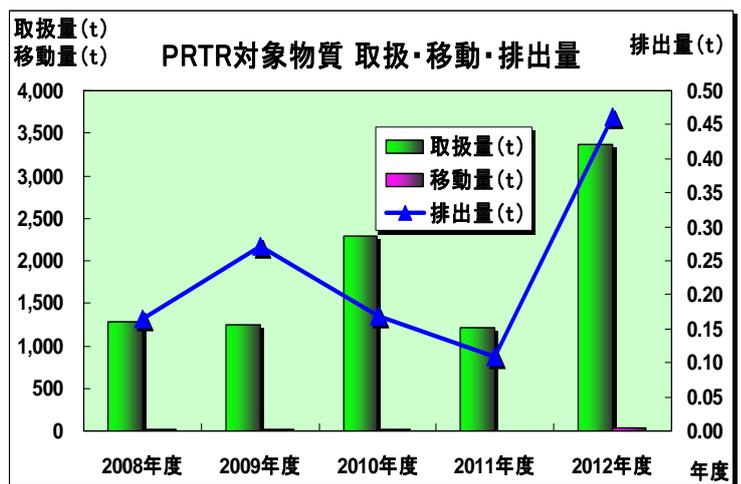


図-6 PRTR 対象物質 取扱・移動・排出量

3) 水域への排出量と推移

株式会社 ADEKA 三重工場の製造工程からは1日に約300tの廃水が発生します。廃水は活性汚泥処理を行った後、雨水・冷却水を除いて全量を公共下水に流しています。工場廃水については工程改善や設備改善を進め、環境負荷の低減に努めています。

4) 産業廃棄物

生産工程からは各種の産業廃棄物が発生します。株式会社 ADEKA 三重工場では事業のグローバル展開と共に、高機能製品に的を絞った廃棄物削減活動を展開しております。2012 年度は 2011 年度に比べ、廃棄物発生量は▲8.9%減少しました。また、産業廃棄物処理業者への委託（処理）量については、内部処理・リサイクル比率を高めることにより、▲13.9%と削減することができました。今後も工程改善による産業廃棄物発生量の削減を図ると共に、産業廃棄物の内、利用できるものは再利用し、資源の有効利用に努めていきます。

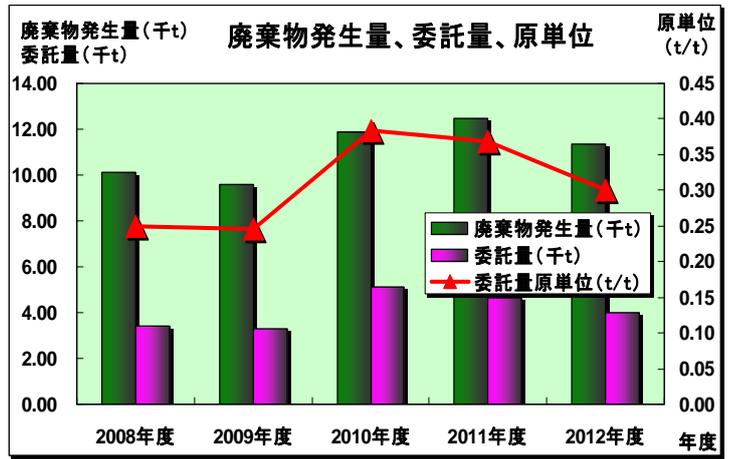


図-7 廃棄物発生量と原単位

表-5 は各工程で発生した廃棄物を焼却した熱を利用して発生した蒸気量を示します。2012 年度は産業廃棄物中間処理施設（廃油焼却炉）の安定運転に努め、蒸気使用量の 25.5%をサーマルリサイクル（熱回収）により賄いました。2011 年度に比べ、熱回収率が減少した要因は焼却に要した廃油の燃焼熱の減少（廃油の質の変化）によるものです。

表-5 産廃炉の蒸気発生量と熱回収率

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度
リサイクル蒸気発生量 (t)	12,665	10,974	14,239	17,295	15,930
蒸気総使用量 (t)	59,102	56,305	64,214	64,939	62,429
熱回収率 (%)	21.4	19.5	22.2	26.6	25.5

産業廃棄物のゼロエミッションに向けた取り組みは、ADEKA 全社として 2012 年度の最終埋め立て量を廃棄物発生総量の 0.5%未満にすべく、最終埋め立て量の削減を進めてまいりました。株式会社 ADEKA 三重工場における 2012 年度の最終埋め立て量の廃棄物発生総量に対する比率（ゼロエミ比率）は 0.18%となり、前年度に比較し僅かではありますが更に減少となり、目標を達成することができました。

6. 安全衛生活動

(1) 労働安全衛生方針

三重工場労働安全衛生方針

<理念>
㈱ADEKA 三重工場は、社会の一員として労働安全衛生が工場活動の基盤であることを認識し、安全で快適な職場作りを推進すると共に、社会に安心と信頼を与える工場作りを目指します。

<方針>

- 法規制の遵守
労働安全衛生に関する法令・協定および当工場が同意した要求事項ならびに社内基準を遵守します。
- 安全・健康の確保
取り扱い物質および設備の性質を把握し、取り扱い方法・設備の適正な管理を実施し、傷害及び疾病を予防します。適正な目標を定め、作業環境並びに労働安全衛生パフォーマンスの継続的改善に取り組みます。
- 労働安全衛生意識の高揚
教育・啓蒙活動を通じて、従業員一人一人が労働安全衛生意識を向上させ、自主管理の徹底に取り組みます。労働安全衛生目標を設定し、目標を実行するための方向性を示します。
- 対外連携の促進
地域社会の一員としての自覚を持ち、積極的な情報公開で意思疎通の充実を図り、社会に安心と信頼を与える工場作りに努めます。

2013年4月1日
株式会社 ADEKA 三重工場長 山田芳雄

(2) 労働安全衛生活動目標

2012年度は、次の目標を掲げ活動してきました。

目標

1. 労働安全・保安防災の先取管理の強化
 - ① 重点作業について、リスクアセスメントの強化（見直し）と階層に従った対策の実行
 - ② 試作・試行時の事前安全性評価の確実な実施
 - ③ 若年層（5年以内の異動者含む）への体験学習教育の実施
 - ④ 工場内ルールの遵守と日常安全活動の強化による労働災害の発生防止
 - ⑤ 保安体制の強化、大規模地震への対策強化
2. 継続的管理目標（年間）
 - ① ヒヤリハット報告 1,000件以上
 - ② STOP-MIE 280件以上
 - ③ 危険予知 2,600件以上
 - ④ 安全提案 720件以上（内、安全改善 720件以上）
 - ⑤ 安全ワンポイント 380件以上

(3) 安全衛生教育

労働安全衛生マネジメントシステムでは、工場の全部門の役割、責任、権限を遂行するために、全ての従業員に労働安全衛生マネジメントシステムの周知と自覚の徹底を図り、必要な資格等の取得を進めています。その方策として、各部署で教育・訓練計画を作成し、それに則り教育・訓練を行っています。

(4) 安全衛生活動の成果

1) 2012 年度の安全活動【月別安全キャンペーン】

株式会社 ADEKA 三重工場では従来からヒヤリハット活動、STOP-MIE 活動などの展開により、災害発生防止に努めてきました。2012 年度の取組みでは、月別安全キャンペーンの実施し、日常の生産活動における安全意識を高めてきました。更に、基本の安全教育を徹底し、再発防止に取り組んでいます。



図-8 安全キャンペーン (2012 年 5 月)



図-9 安全キャンペーン (2013 年 3 月)

2) 安全成績

2012 年度は災害ゼロの目標に対し、休業災害は 0 件でしたが、不休災害・微傷災害が合計で 2 件発生しました。この災害はいずれも工程運転中の重大な災害ではなく、軽微なものでした。ゼロ災は未達成となりましたが、件数自体は 2011 年度と同数での推移となりました。

近年の傾向として、危険予知の不十分な若年層の災害、通勤途上における災害が発生しています。この点を踏まえ、再発防止と情報の横展開に万全を期して、安全活動を展開しています。

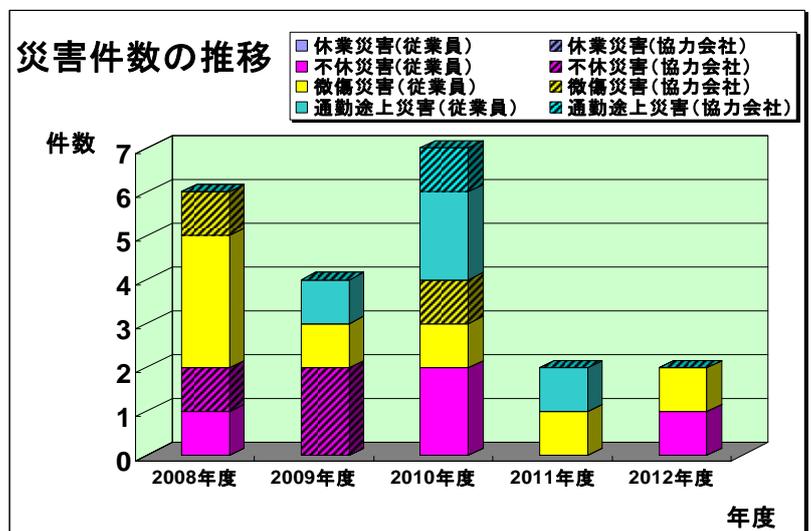


図-10 災害件数の推移

(5) 保安活動

【緊急事態への対応】

地震などの天災による、不慮の事故の発生に対して、企業は緊急時の手段を明確にしておかなければなりません。株式会社 ADEKA 三重工場も当然のことながら、緊急時の対応について、基準・標準等に規定して対策をしています。火災やガス洩れなどの緊急事態に対しては、初期段階で検知し警報を発するシステムを備えています。更に、発生部署での初期緊急対応の体制と、工場全体での緊急時のために組織された保安出動隊が出動する体制を敷いています。

初期緊急対応と保安出動隊の要員は消防操法・救急救命等、十分に訓練され経験のある従業員で構成されています。2012 年度は、8 月 10 日に地震発生に伴う火災発生を想定した緊急対応訓練、避難訓練、初期消火訓練、保安出動隊の訓練を実施しました。



南海トラフ巨大地震に対する危惧が高まる中、株式会社 ADEKA 三重工場におきましても防災対策（備品の配備）を進めています。



非常用ディーゼル発電機



防災備品倉庫



インマルサット衛星電話

2012 年度は巨大地震を想定した BCP（事業継続計画）の構築を図りました。各部署における DIG（図上訓練）を行い、巨大地震発生による被害・影響を洗い出し、有事の際の体制の構築、事前対応策の立案、事業再開における一連のプロセス（計画）をまとめました。

BCP については、適宜、その内容を見直し、危機管理強化を図っていきます。



7. 物流環境安全活動

生産活動での環境・安全活動と同様に物流部門でも環境・安全活動に取り組んでいます。運送会社の協力を得てアイドリングストップ活動に取り組み、環境保全に努めています。

株式会社 ADEKA 工場の製品の一部は消防法の危険物に当ることから、万が一の輸送中の事故に備え携行しているイエローカードに基づく通報訓練を定期的に工場と運送会社が連携して行っています。

又、製品を安全にお客様の元へお届けするには、交通事故の防止にも努めることも重要で、運送会社単位で自動車事故対策センターの適性診断を受けるなど、交通事故防止にも取り組んでいます。



8. 社会貢献活動

(1) 地域とのコミュニケーション

1) 施設の開放

私たちは、地域との関わりを大切にしています。三重工場の野球場及びテニスコートを地域に開放しております。

野球場は地元のスポーツ少年団のチームの育成などに活用して頂いています。



2) 東員町商工祭

2012年10月21日、地域産業の発展の一助となるべく、地域の商工会活動などにも積極的に参加致しました。



3) 東員町小学生・中学生勤労体験学習

2012年度は、地元中学校の要請により、5月9～11日、11月6～8日の二回に渡り、各々2名の勤労体験学習の受入を行いました。また、2013年2月7～8日には地元小学生2名の勤労体験学習の受入を行いました。



4) 地域ボランティア

株式会社 ADEKA 三重工場では、毎週月曜日の朝に地元団地内の交差点二箇所、小中学校の児童・生徒に対して交通指導を実施しています。



(2) 清掃活動

1) 工場周辺の一斉清掃

2012年6月8日、工場外の公道の両側の清掃を東西の外周に沿って例年通り実施しました。この活動は今後も引き続き定期的にも実施していきます。



2) 東員町クリーンアップ作戦参加

2012年12月2日、地元の東員町を流れる員弁川河川周辺に不法投棄されたゴミの撤去・回収に、有志者11名が参加しました。



この環境・安全レポートに関する質問、ご意見は下記の窓口へお願いします。

作成 株式会社 ADEKA 三重工場 環境・安全管理委員会事務局
確認 株式会社 ADEKA 三重工場 環境・安全管理責任者 江上富夫
窓口 株式会社 ADEKA 三重工場業務部業務課長 伊藤博也
住所 〒511-0251 三重県員弁郡東員町山田 3707 番地の 1
TEL 0594-76-2330(代) FAX 0594-76-3011

株式会社  三重工場 業務部業務課 TEL 0594-76-2330 FAX 0594-76-3011

ご意見をお聞かせください

私たちは地球環境の保全と労働安全衛生に積極的に取り組んでおります。
今回、2013年版の環境・安全レポートを発行いたしました。未だ不十分な面が多々あるかと思えます。
皆様より頂いたご意見、感想を参考とさせて頂き、より良い活動を進めたいと考えています。皆様の忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

株式会社 **ADEKA** 三重工場
環境・安全管理委員会事務局
FAX 0594-76-3011

1. この環境・安全レポートの記載項目はいかがですか。

a. 物足りない b. 普通 c. 充実している d. その他()

2. この環境・安全レポートの記載内容はいかがですか。

a. 理解できない b. 普通 c. よく理解できた d. その他()

3. ご意見、ご感想をお願いします。

※ お名前、ご住所等は個人情報となりますので、記入は任意です。

ご勤務先 _____ お名前 _____

連絡先ご住所 _____

電話番号 _____ FAX 番号 _____